

会 議 名	第三回足立区ギャラクシティ運営評価委員会		
開 催 年 月 日	平成 29 年 11 月 10 日 (金)		
開 催 場 所	ギャラクシティ 地下 2 階 第 3 レクホール		
開 催 時 間	14 時 00 分開会～16 時 00 分閉会		
出 欠 状 況	委員現在数	10 名	
	出席委員数	9 名	
出席者 (敬称略)	■出席	委員長	■宮田 隆志 (東京大学大学院理学系研究科教授)
		委 員	■池田 幸也 (常磐大学コミュニティ振興学部学部長)
	□欠席	委 員	■井徳 正吾 (文教大学情報学部情報社会学科教授)
		委 員	■小森 伸一 (東京学芸大学学長補佐)
		委 員	■伊志嶺 絵里子 (東京藝術大学音楽学部非常勤講師)
		委 員	■林 克彦 (石洞美術館学芸員兼事務局長)
		委 員	□田中 則聡 (足立区立小学校 P T A 連合会顧問)
		委 員	■大林 英夫 (足立区少年団体連合協議会副会長)
		委 員	■勝倉 秀一 (一般公募)
		委 員	■山崎 千枝 (一般公募)
事 務 局	地域のちから推進部地域文化課	課長	浅見 信昭
指定管理者	地域文化課ギャラクシティ支援担当	係長	中島 宣幸
	地域文化課学習事業係	係長	野坂 直子
	地域文化課ギャラクシティ支援担当		新井 祐介
	地域文化課学習事業係		須藤 由美
	地域文化課地域学習センター支援係		小林 恵子
	地域文化課地域学習センター支援係		枝川 彩子
	館長		黒川 和男
	副館長		俣田 浩昌
	副館長		京極 守
	文化事業チーフ		諏訪 綾子
	こども体験事業チーフ		長谷川 武史
	まるち体験事業チーフ		宇野 知樹
	総務チーフ		林 善憲
	広報・プロモーション責任者		星川 庸子
広報事業チーフ		斎藤 歩	

<p>会議次第</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委員長挨拶 3. 事務局からの資料説明 4. 指定管理者からの説明、ヒアリング 5. 意見交換、委員会からの意見の検討 6. 事務連絡 7. 閉会
<p>配布資料</p>	<p>資料1 「第2回議事録（案）」</p> <p>資料2 「平成28年度運営評価委員会 採点票」</p> <p>資料3 「平成27年度運営評価委員会 評価書（参考）」</p> <p>資料4 「平成27年度運営評価委員会 評価項目ごとの採点一覧（参考）」</p> <p>資料5 「平成27年度運営評価委員会 評価採点票委員所見まとめ（参考）」</p> <p>別紙1 「ボランティア登録者数内訳」</p> <p>別紙2 「文化事業年報・実績」</p>

<p>中島係長</p>	<p>< 1. 開会 ></p> <p>本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。平成28年度第3回ギャラクシティ運営評価委員会を開催させていただきます。2回目の開催日に委員の皆様からいただきましたご意見につきまして、振り返らせていただきます。</p> <p>管理体制については、「スタッフ研修はどういったカリキュラムに基づいて行われているのか。また、P D C Aサイクルの「C (チェック)」の部分についての管理体制についてどうなっているのか。」というご意見がありました。また、職員の離職率について「離職率が高くなっているのはどういった理由からか」というご質問もありました。</p> <p>子ども体験については、事業の効果測定、アンケートを次の事業にどのように生かしているのかという内容やボランティアの活動状況、活躍状況についてご質問をいただきました。</p> <p>まち体験ドームにつきましては、投影回数が増えている中で星空解説の実施回数が少なくなっているのではないかというご意見がありました。また星空解説のスキルアップがなされているのかという質問もありました。</p> <p>文化事業については、稼働率がたかく、館ががんばっているというご意見をいただく中、文化ホールらしさにはどういったものがあるのか?というご意見がありました。</p> <p>最後に広報事業について区民利用率の上昇について、どういった対策をとっているのか、また区民ライター現在の活動状況についてのご質問もいただいております。詳しくは第二回目の議事録を後ほどご覧ください。</p> <p>本日は、指定管理者から追加の資料がありますので、それについて説明がございます。前回、時間が限られている中、ご質問ができなかった委員の方もいらっしゃると思いますので、今日あらためてご質問いただければと思います。また、今回も時間が限られている状況の中ですので、傍聴人と指定管理者に同時に入室していただき、ヒアリングをはじめさせていただきます。</p> <p>指定管理者9名、傍聴人1名の入場が完了いたしましたので、ヒアリングを開始したいと思います。ここからの進行は委員長をお願いいたします。</p> <p>< 2. 委員長挨拶 ></p>
<p>宮田委員長</p>	<p>ただいまから、足立区ギャラクシティの運営にかかわる第3回運営評価委員会を開催いたします。本日は10名のうち、田中様がまだ来られていませんが、時間ですので進めます。本日の資料について事務局から説明をお願いいたします。</p>
<p>中島係長</p>	<p>< 3. 資料確認 ></p> <p>なお、資料1の議事録については、ご意見がある場合、11月24日までに事務局にご連絡ください。それ以降については確定し、情報公開させていただきます。</p>
<p>宮田委員長</p>	<p>では、これから議論に入ります。まず、本日の流れですが、この追加資料に関して説明をいただき、質疑応答を進めたいと思います。その後、委員が意見交換をします。では、ボランティア登録者数の内訳の資料の説明をお願いします。</p> <p>< 4. 指定管理者からの説明、ヒアリング ></p>

俣田副館長

先ほど説明がありました、ボランティアデータの資料を使ってご説明させていただきます。前回、宿題をいただいたものです。登録されている方のデータになりますので、各大学で学生が主体となっている事業についてはボランティア登録されていません。あくまで個人、団体の集まりとしての登録者ととらえてください。

1 番目ですが、年代別・男女比です。数字を見ていただければ、10 代、20 代のボリュームが多いです。30 代・40 代で一度少なくなってから、また 50 代・60 代で多くなっている。男女比率でいうと女性が約 75%で、女性のほうが多いです。10 代、20 代が多いのは、高校生・大学生は学校から与えられている課題をクリアするためにどこかでボランティアしたいという方がいますので、ボランティア登録が多いです。

2 番目の活動頻度ですが、今説明したとおり、1 回、0 回の方がいます。この辺は学生が集まっているところですが、高校生であれば夏休みに登録して、1 ヶ月から 2 ヶ月の中で活動をして、その結果を学校に提出して終了ということが多いです。また大学生も同じような形で 1 回はという形で登録している方が「年 1 回」のところに入っています。年 1 回のところは 10 代 20 代以外の方は入っていません。0 回もありますが、これはシステムとしてここに来て、体験説明会に参加していただき、私達の活動を伝え、館内の施設を説明し、そこで質疑をしながら事業ができるかどうかを話し合ってから登録してもらって、はじめて登録となっています。そこから来ていない方が 0 回になります。内訳ですが、20 代の方が 3 人。40 代 2 人、60 代 2 人です。特に 20 代の方は、3 月中旬にボランティア登録したので、28 年度は一回も活動していなかったということで、今年度は動いています。40 代の方は動いていない。半年たっていますが一度もきていない。仕事を持っている方なので都合があえばという形でした。案内は出していますが、そこからつながりません。60 代の方は、連絡もつかないため事情は不明です

活動頻度では月 2 回以上が 1 番多い。ここに根付いてやっていただいている方も多いため、グループや個人で積極的に活動してくれている。学生は比較的単発で、ある程度の目的を持って活動してくれている。それ以上の年代の方は比較的根付いてやってきている。住所は、20 代の方は足立区の方が多い。それ以外の方は足立区以外の方、高校生だと学校は足立区で住所は区外というような子もいます。

次にボランティア主催事業の参加者数です。ボランティアが主体となってやっていただいている講座です。自分達で企画し、仲間を集め、事業を構築し、運営をしていく。ギャラクシティの立ち位置はサポートすることです。ここに名前を載せていますが、その人たちが主体的にかかわってくれています。同じ名前がありますが、熱心にギャラクシティを影で支えてくださる方がいらっしゃるということです。その下ですが、ギャラクシティ主体事業の参加者数です。いくつかのカテゴリーにわけて事業を行っています。一番下の団体登録ですが、5 団体が登録しています。Gユニについては、足立区青少年課が主催しているグループです。そのため、私どもは後方支援です。それ以外の団体は、私達とともに事業を構築して運営しています。年齢的には、50 代 60 代が主力となっています。

主だった活動としては、ボランティアのワークショップ。こちらはボランティアが主となってやっている事業です。ワークショップ補助は、ギャラクシティが行っている事業にボランティアが参加してサポートしていただくものです。定例会・研修会は、ボランティアのための勉強の場、意見交流の場です。交流会については、館外、ここから出てほかの施設で勉強する、あるいは見学して知識をあげていくための事業として構築しています。デジタルメディア事業は昨年度から力をいれています。ここには力を入れていて、東京大学の先生をお呼びして、皆で学びながら実施しています。データは出ていませんが、この事業は昨年度年間 60 回くらい実施しています。のべ 80 名位の方がボランティアとして活動していただいています。

2 団体ですが、団体で登録していただいているボランティア事業ということで、たまご文庫があります。読み聞かせを得意としているので、平日の午前中、あるいは日曜日の午前中に 2 階のお部屋をつかって未就学児向けの講座を行っています。このような形で団体の方とは協力して実施しています。

ギャラクシティは毎年、7 割くらいの方が継続し、補完されて、だいたい常に 100 名程度の方が登録されているということが続いています。担当としてみることでできるキャパシティを考えるとこれくらいが限界とと思って

	<p>います。学生は卒業すると社会人になって、また新しい学生が登録する。その学生の離反が多い。50～60代の方はある程度継続して実施しているが、家庭の事情でいったんお休みをされて何年後かにまた戻ってくるということもあります。そういったこともありながら年間約100名程度のボランティアが登録されているというのが現状です。</p>
宮田委員長	<p>ありがとうございます。ボランティアの関係で、ご意見ご質問はありますか？</p>
池田委員	<p>詳細にデータを出していただき、とてもよく分かりました。ボランティア登録制度は、どこでも実際の活動と登録の連携が難しいのが課題です。活動したい方が活動したいときにすぐに活動できる、時間的な間がなく、つないでいけるといいと思いますが、現実的には難しいと思います。お聞きしたいことの1つは、高校生や大学生が個人ボランティア登録をされているということでしたが、その登録している学生の学校の先生、大学の関係者などと、ギャラクシティの間に何か接点はありますか。2つ目は、5団体の話ですが、それぞれ何年くらいかわっていただいているのか。今年度から新たにというようなことはあるのでしょうか。3つ目は、ギャラクシティとボランティアをコーディネートしている人、ボランティア活動を支援している職員の方は何人くらいいるのか。また責任者は1人なのか、どんなお立場の方なのか、というあたりを教えてください。</p>
俣田副館長	<p>まず、1つ目の質問各学校との結びつきですが、大学に関しては、一般の授業の取り組みとして教授などと連携をとっています。今回のデータは個人で登録している方のデータになっていますが、個人との結びつきイコール大学との結びつきということはありません。高校については、特に接点はありません。個人で登録していただいて、支援の場として活動していただいているので、そこから先生にフィードバックしているということはありません。ただ、私達も他の施設にアウトリーチにいった際に、ボランティアの方と交流することがあるのですが、学校としていろいろ取り組んでいるという話はきいているので、もしかしたらこれから余力があれば次は高校とどう取り組んでいくのか、足立区の高校と何かできる可能性はあると思います。</p> <p>2つ目の質問の団体登録ですが、こちらは、初年度からやっていたいただいている方々がほとんどです。たまご文庫さんだけは、私達が結びつきを強くしてやりはじめました。団体登録していて、いろいろな私財も持っている方々なので、ここで保管をして事業をやりやすい環境をつくっています。団体登録に関してはそんなに増えていく状況ではないです。</p> <p>3つ目の質問の職員についてですが、現状は1人が担当しています。100人近い人数を1人が束ねています。その担当者が事業の内容をメールで配信したり、募集したり、交流会の場をつくったり、主体となって動いています。そこに事業系のチームが6人いますので、足りないときはその中の誰かがサポートしています。そのため直接関わっているのは1人です。</p>
井徳委員	<p>70代は男性1人だけの登録となっていますが、70代は、もう少し何かやればあと10人くらい増やせるのではないかと。</p>
俣田副館長	<p>女性は比較的多いが、男性は説明会に来る人も少ない。私たちの使用している情報のツールにも課題があるのかもしれない。ボランティアを受け入れているということをHPで出しているのですが、70代の方がそこまで見ているかわからない。</p>
井徳委員	<p>65歳とか70代以上のシニア層は特別な枠組みで集めるってことはできませんか。たとえば、「ギャラクシティ教育コンシェルジュ」などといった肩書きを差し上げるのはどうか。そういう肩書きをつかっていいですよとい</p>

黒川館長	<p>って、名刺を100枚くらい作ってあげるといいのではないかな。名刺をもらうと、年に2回というわけにいかなくなるのではないかな。もうちょっと行こうかなとなるかもしれない。何か工夫ができないかな？</p> <p>おっしゃるとおりです。一般的に、60代後半から70代のボランティアは公共施設では多い。しかし、当館のボランティアは若い方多く、スタッフ顔負けにがんばってくれている。そのためジャンルを区切るとか、専門性を高めることでシニアボランティアの活用を増やすというのは考えられる。</p>
井徳委員	<p>一般的なボランティア募集というとなかなか応募してこない。普通のボランティアとは違い、専門性の強いボランティアを募集しているとすればもう少し応募が増えると思います。</p>
俣田副館長	<p>70代の男性の方が、皆で集まってガヤガヤと活動することは難しいと思う。女性は比較的、皆で集まって、ある程度場をつくればコミュニティをつくっていくことはできると思いますが、男性は個人でという意識が強くなってくる。今いったように、肩書きなのか、専門的なところなのか、アプローチの仕方が課題だと考えています。60代男性で登録している4人はデジタルメディア系の事業の方です。このことから専門的に知識をもっていて、自分が活躍できるものをはっきり示してあげることのほうが60代70代の登録者数増加につながっていくのではないかと考えています。職員にも70代近い方も多いので、意見を聞いてみます。</p>
宮田委員長	<p>ありがとうございました。続いて文化事業について、お願いします。</p>
京極副館長	<p>A3横の写真が入っていない表がありますが、これは1年分の公演日の日付が若い順に並んでいます。大型公演と小規模公演にわけています。毎月、事業が終わった都度、付け足しています。月報といわれるものです。3月になると1年分がたまり、年報ということが出来る。公演の概要、人数、チケットの種類、広告活動が一覧になっている表です。もう一つ、写真が入っている資料ですが、この一覧にまとめたものを毎月ごとに公演が終わった都度、定例会等で細かい詳細、アンケート結果やコンサートなどの写真などを報告しています。ここには全部ありませんが、毎月終るたびに報告しています。前回、問い合わせいただいたアンケートこのように集計しております。最後にもう一枚、こちらは公演ごとのチラシです。</p>
伊志嶺委員	<p>資料ありがとうございます。事業実施数もかなり多いと思います。お伺いしたいのは、客層の区内と区外の割合についてです。例えば資料の中のアルゼンチンタンゴショーなどは区内と区外どのくらいの割合の客層なのでしょう。また、集客目標はどのように定めていますか。もう1つは昨年度もお尋ねしましたが、アウトリーチについて、今回は特にやられていないようですが、今後、アウトリーチについてどのようにお考えですか。今回、よいと感じたのは、若者向けのイベントを少し入れて、ゲーム音楽など、客層の幅を広げたというのもいい方向性だと思いました。一方、ギャラクシティのオリジナリティが少し弱いのではないかと感じます。隣にはギャラクシティがあり、子ども向けのイベントも多くやっているので、ギャラクシティが持っているコンテンツを活かしたオリジナリティある企画があると、区外へのアピールにつながるのではないかと思います。</p>
諏訪チーフ	<p>先ほどの例にでましたアルゼンチンタンゴショーですが、足立区民ですというアンケート結果からでしかないですが、51%の方が足立区の方です。都内は27%、都外は22%でした。そのほかの公演についても、著名人を呼べば、どうしても外からの流入が多くなります。足立区民に対する先行販売を行って、足立区民ファーストとして実施しています。2つ目の集客目標ですが、定員に対して、集客目標が低いというのがありますが、平成28年度までは全体予算に対してどこのラインが収益の分岐点になるのかというところを考えて、集客目標としていま</p>

	<p>した。今年度につきましては、定員と集客目標をある程度一致させるようにしています。3つ目のアウトリーチについては、平成28年度は行っていません。しかし今年度は、地域学習センターに出向いています。そのほかにも光の祭典に出ようとしたのですが、ステージの抽選に落選したりして、できない部分もありましたが取り組みは行っています。また、オリジナリティに関してですが、ズーラシアンプラスでは、隣で工作教室をやっているのので、そのノウハウをいかして、ロビーでお面を作るワークショップを開催したりして、西新井文化ホールのコンサートに来ると他にも楽しいことがあると子ども達にアピールしています。これは今年度も継続して体験事業との連携を図っています。</p>
山崎委員	<p>友の会がありますが、扱いはどのようになっていますか。一番初めに広報が届くようになっていますか。</p>
諏訪チーフ	<p>なっています。ただ、どうしても発行のタイミングが合わない場合は発売中というものもあります。それ以外に関しては友の会の価格設定があるものなどはお知らせしています。</p>
勝倉委員	<p>実は目標達成率が高いものは何だろうということで、見ていましたが、親子コンサートや参加型のイベントは非常に参加率が高いような気がします。この辺はお気づきでしょうか、今年度はそういうカテゴリーのイベントが増える傾向にありますか。</p>
諏訪チーフ	<p>29年度は増えています。やはり価格的に安いものに人が集中しやすいです。西新井文化ホールですと、親子向けで、大人のチケットが2000円を超えると動きが鈍くなります。2000円以下は動きがいいです。それから、エンターテインメント性に富んだものは動きがいいのですが、ちょっと勉強してみようとか、こんな体験をしてみようというようなものに関してはあまり人気がないので、広告や宣伝に力をいれています。例えば、今年度は、「ピアノの謎を解き明かせ」というピアノの構造や歴史を学ぶコンサートをやるのですが、それに関しては動きが鈍いのでこれから力を入れて宣伝していこうと思っています。</p>
伊志嶺委員	<p>今おっしゃられていたように、クラシック系は集客が悪いように見えます。広報を、足立区の広報だけではなく、クラシックのブラヴォなどに載せたりするのは難しいのでしょうか？</p>
諏訪チーフ	<p>予算さえあればそれはできます。しかし、やはり足立区のためにやっていますので、足立区に情報を落としたいという思いがあります。そのため、あだち広報やときめきに載せていただいています。動きは鈍いと思います。それ以外にもコンサートサービスや類似の公演を行っているところで挟み込みなどをお願いしてはいます。</p>
山崎委員	<p>広報するときに、1歳児や2歳児がいるとダメとかそういう制限はありますか？そうするとどうしても行けなくなってしまう。</p>
諏訪チーフ	<p>公演によって、0歳児から入場可の場合や未就学児不可という場合もあります。</p>
山崎委員	<p>0歳児からOKだと集客がありますよね。親からすればそう書いてあると行きやすいです。クラシックが低くなるのは赤ちゃん連れとか、1歳2歳の幼児を持つ親はいけないからではないでしょうか。この施設を使うのは親子なので、そういうことが出ているのではないかと思います。</p>
諏訪チーフ	<p>ただし、未就学児を連れた親子向けの事業に集中するわけにはいきません。区民の方は0歳児から70代80</p>

	<p>代の方までいらっしゃいます。また未就学児は入れないでくれなど演奏家の希望もあります。その代わりに、0歳児から入れるコンサートもたくさん行っています。ただ0歳児のときは来ているのに、小学生になったら来ないということもあります。子どもが忙しくなるのか。そもそも子ども達がクラシックに興味がなくなっているのか。などいくつか原因はあると思います。</p>
勝倉委員	<p>データを見せていただくまでは、大月みやこなどネームバリューの高い公演に集中するのだと思っていたのですが、地元密着に近い親子コンサートなどが活発だということは非常にいいことだと思います。小さな子を連れて近くのホールに行き、良質なものを鑑賞できるということは、今後のホールの強みになると思います。</p>
諏訪チーフ	<p>文化事業チームでは、「西新井文化ホールらしさ」というのは、あらゆる年代の方が楽しめるホールであり、隣のこども体験施設とも親和性を持ち、親子で楽しめる公演に力を入れていこうと話しています。それが実現したときに賑わいもうまれ、子ども達に満足していただけると同時に西新井文化ホールらしさが出てくるのではないかと考え、ここ1~2年、集中的に取り組んでいます。</p>
井徳委員	<p>今のお話ですが、文化ホールに来たお客様が、ギャラクシティに来るという連動性はうまくいっていますか。</p>
諏訪チーフ	<p>コミュニケーションは取れてきています。たとえば開演時間をずらして、その結果、まるち体験ドームに人がうまく流れるよう時間の設定を検討したりしています。</p>
俣田副館長	<p>初年度や2年目から比べると格段に効果があがっていると思います。今いったように各施設に時間のずれをつくったり、事業のテーマをあわせたり、またまるち体験ドームでもコンサートを行っています。文化ホールの強みを使ったコンサートやまるち体験ドームをつかった小規模のコンサートなどいろいろな形で事業を交えてやっています。</p>
林委員	<p>足立シティオーケストラの演奏会ですが、902名定員に対して938名入っていますが、36名は立ち見なのですか。</p>
諏訪チーフ	<p>自由席でチケットを販売していたのですが、主催者が定員よりも多くチケットを販売してしまいました。途中で帰られる方も多かったので、空いた席に順次座ってもらいました。子どもむけコンサートについては、お子様を1人とカウントするのかわからないのか地域文化課にお伺いしたところ、ケースバイケースだというお答えをいただいたので、入り口で数とり表をもって、定員を超えないようにしていますが、赤ちゃんの場合は、定員を超えている場合があります。</p>
林委員	<p>10番の茨木さんのサマーナイトコンサートですが、25%で、目標が達成されていません。茨木さんは私の美術館でコンサートをしていただいたことがあって、とてもよかったです。足立区に縁のあるアーティストを起用したコンサートということで、西新井文化ホールで行うのはとてもいいと思います。できれば、こういうコンサートは今後も続けていただきたい。こういう目標達成率が低いと見直す可能性もありますか？</p>
諏訪チーフ	<p>今年度も同じようにサマーナイトコンサートは茨木さんではないですが、実施しています。今年度は津軽三味線の「あべや」ですが、足立区で生まれ育った若者達です。あとは竹の塚にお住まいのジャズピアニストを中心としたトリオということで地元のアーティストを紹介しています。</p>

宮田委員長	<p>ありがとうございました。前回、広報事業についてお話していただきましたが、再度説明をお願いします。</p>
齋藤チーフ	<p>28年度は、27年度にあげられた課題についての対応をしてきました。足立区内での認知度を高めるというご指摘がありましたが、課題としては区民の手元に届くということ意識した広報活動ということを行ってきました。区内循環バスのはるかぜへの広告を新たに始めました。春休みの広域広告というところでは、交通広告として車内の窓上に広告を出しました。駅での掲示も行っていましたが、足立区内全駅に拡大し、足立区内の皆様へ情報が届くようにとスペースも2倍にして展開しました。また、WEBでの広告展開も交通広告と同時に行いました。25Pですが、区民の皆様の手が届くような広報方法ということ意識して配布の強化を行いました。ギャラクシティニュースは、13万枚を区内と草加市の一部に配布していましたが、18万部を足立区全戸に折り込み広告で配布いたしました。また、紙面づくりの強化についてですが、ニュースと別に区内の全小学生に配布しているイベント情報を広報誌として作成しており、こちらをより見やすくするために、見開きにしたり、夏休み冬休みの特別号については6ページに拡大したり、文字も大きくするなどして、小学生の視点を意識した紙面にしています。結果、足立区内の利用者比率がアンケートからみて25%から33.4%に上昇しています。</p> <p>26Pです。区民が誇りをもてる親しみの持てる施設へというご指摘を受けました。これについては、企業と連携したイベントの開催が少なかったことを課題の1つと考えました。そのため今年度は西新井周辺の施設との連携ということで、アリオ西新井店と協力してスタンプラリーを実施しました。北千住マルイとも連携し、エポスカードの提示でまるち体験ドームが割引で入れるという連携も実施しました。また、キンビバレッジとの連携や事業展開を行い、アウトソーシング社、ペッパーを活用して、文化ホールの事業とも連携いたしました。広報の主導連携イベントとしては、27年度5件だったものを9件に増加し、先方のリソースを使った情報の展開というところでは8件の媒体で紹介されました。27Pですが、SNS等を活用した口コミの強化も図りました。がんばるウォールの右手に口コミ掲示板がありまして、そこで実際にいただいた意見をWEBで配信しています。また、区民ライターの育成として、ギャラクシティライターの養成講座を実施しました。こちらは利用者目線の情報発信を狙いとしています。また、フェイスブックの投稿リーチですが、こちらかなり情報発信をこころみて、リーチがかなり伸びています。SNSの発信件数も増加しています。閲覧数もかなり多くなっています。1Kとは1000件のことですが、1000件のリーチが常態化しています。</p> <p>まとめになりますが、今後、口コミコミュニケーションの強化、HPへの誘導強化とSNSの活用、メディア・企業との連携したイベントの開催、足立区民を意識したPR活動の4点に力を入れていきたいと考えています。</p>
宮田委員長	<p>ありがとうございました。広報事業についてご意見ご質問はありますか。</p>
井徳委員	<p>今回の説明をお聞きして、広報活動については今後もこのような方向性で続けてもらいたいと感じました。</p>
大林委員	<p>私も広報については、駅頭でかなり目立っていると思っています。もう一度ギャラクシティに足を運んでいただくには、の口コミが大切だと思います。それから学校と協力して、子ども達をギャラクシティに引き入れないといけないと思います。子どもが行きたいから大人がついてくるのだと思いますので、より子ども達をターゲットにした広報活動に力を入れてほしいです。</p>
齋藤チーフ	<p>足立区にご協力をいただいている、小学校の全校生徒に配布している広報誌を出しており、そちらの反応がとてもいいです。「イベント情報」というのですが、これに関しては家庭でもギャラクシティのことが話題に上るような形になっているのではないかと思います。「イベント情報」を配った直後は問い合わせの電話も多くなります。講座の申し込みも増えます。</p>

大林委員	直接学校にいて、PRを行うということはしないのですか。学校によってはそういうのを受け入れる学校もあります。
斎藤チーフ	区内の高校にはアプローチの強化が必要と考えております。平成 28 年度はギャラクシティニュースを足立学園や東京電機大学に直接お持ちして、配布の依頼をしました。足立学園さんは、毎回お送りするようになっていきます。
宮田委員長	前日も含めて、これまでの意見交換会全体について委員の皆さんからご質問があればお願いします。
黒川館長	1つ、質問がございます。本日足立区の所見の入った採点表をいただきましたが、指定管理者が自己評価して委員方にプレゼンし、今度は足立区の見解が記載されています。それに対して指定管理者が意義を唱えるつもりはないですが、今後公開の場があるのでしょうか。
中島係長	このあとについては、意見交換の場となりますので指定管理者には退席していただきます。今回の意見交換会の内容については、委員の皆様にご了解をいただいたあと、議事録として公開されますので、ご確認をお願いします。
宮田委員長	見ることはできるが、意見を言う場はないということですね。他に何かご質問はありますか。
池田委員	前回、バリアフリー研修の報告をいただきました。この研修を通して、設備について区役所への要望ですとか、課題が出てきたというようなことはありますか。ボランティア活動を活発化するにはこのようなものが必要であるといったご要望などがあればお聞きしたい。
黒川館長	当館は 20 年以上経つ施設なのでリニューアルしましたが、館内危険箇所もあります。これについては私たちが足立区役所へ指摘をして、区はできる限り修繕を行って来ていますので、安全な施設になっています。バリアフリーという意味では段差解消機などもありますし、こういったものがほしいとか、特設改善してほしいという要望はありません。
池田委員	課題がある場合はその都度、やり取りをしているという理解でよろしいですね。
俣田副館長	バリアフリーというわけではないが、毎年区側のギャラクシティの担当が変わって来ましたが、今年度は 2 年間やっていただいている担当者なので、2 年目がスムーズに進んでいます。毎年担当者がかわって、多くの事業を毎年説明すると出足が遅れます。夏場以降からやっと協調性をもって一緒にやれるようになります。そしてまた翌年は担当者が変わっていくという流れでした。今回ボランティアが根づいていったのも担当者の方に 2 年間一緒に考えていただいたのでその成果だと思います。広報活動についてもどこに力をいれるのかなど継続して話し合っていくことが大切だと思うが、1 年で担当者が変わってしまうとそういったことも忘れてしまいます。そういう課題はあると思います。
池田委員	もう一つよろしいですか。4 年目は熟成、5 年目は結実の時期と前回うかがいました。その中で「自律的な発展へ」につなげるために何か特徴的な発想や柱立てというものがあれば、教えてください。

黒川館長	<p>3年前に、青山のこどもの城がなくなって、日本全国で子ども達の児童館のフラッグシップになるような施設がなくなりました。こどもの城がなくなったときギャラクシティが日本の児童館のフラッグシップになるという気持ちで取り組んできました。しかし、区の財政によって運営されている施設のため当たり前ですが、足立区民優先で考えるよう指示もありました。そうすると東京のギャラクシティ・日本のギャラクシティというふうにはならなくなりました。もちろん足立区民を優先しながら施設のメジャー化を図っていくことは不可能ではないと思います。1期目につきましてはそういう方向で完結させようと考えています。</p>
池田委員	<p>ご説明の中で今後のストーリーをきちんと考えて、指定管理をしていただいているということが伝わりました。</p>
俣田副館長	<p>わたしたちが、1年目から積み上げてきて、育ってきた子ども達がたくさんいます。最初、小学校3年生だった子が中学生になり、連続講座に参加した子はかなりスキルアップして卒業していきます。事業の主体は今まで積み上げてきた知識やノウハウ、できたものを発表するというをここ2年間で増やしてきました。まるち体験ドームも国際映像祭など大きなイベントを誘致して、自分達がつくってきたものを外で発信する、部活動についても外で発表するというを行ってきました。卒業生をなんらかの形で私達が支えながら発表の場をつくり、5年間を一度締めくくれるよう3月に向けて準備していきたいと考えています。</p>
林委員	<p>離職率についてですが、職員募集のサイトをみていたら、ギャラクシティも募集をかけていらっしゃるようです。なかなか人材が集まりにくい時代という話も聞きますが、ギャラクシティの場合はやめていった人の分の人員は充足されていますか。</p>
黒川館長	<p>ほぼ100%充足されています。ギャラクシティの名前で募集しているが、ギャラクシティから育って、代表企業もっている他の施設へ異動していくということもあります。いったんギャラクシティに配属はするが、ギャラクの中でエキスパート育った者を別のところに動かして、そこの補充として募集した人間をあてはめることもあります。現状、当館は人手不足ありません。</p>
宮田委員長	<p>他に全体を通してご意見ご質問はありませんか。なければ、一度、指定管理者傍聴人に退席させていただきます。</p> <p>< 5. 意見交換 ></p>
宮田委員長	<p>それでは、これから各項目について意見交換を行います。本日の回答、また前回の内容も含めて意見交換をしていただきたい。</p>
宮田委員長	<p>まず管理運営については、昨年から比べると比較的评价も高く、しっかりしていただいていると思います。</p>
勝倉委員	<p>接客について外部の評価を取り入れられたのは今回が初めてでしょうか？</p>
中島係長	<p>昨年もありました。</p>
勝倉委員	<p>外部評価の結果は、去年と今年を比べてどうですか？</p>

中島係長	<p>昨年もかなり評価は高かった。今年度も高い評価を維持しているという状態です。</p>
池田委員	<p>全体的な印象ですが、努力されて前に進んでいると感じます。前回、エクセレントサービスという言葉で「3歩前のおもてなし」と表現されていましたが、この施設のあり方がその方向性だけでいいのかという課題があるのではないかと考えています。お客様を接遇する、お客様を受け入れるということは必要なことですが、同時にボランティアなどさまざまな参加の工夫をしていただいています。かかわってくださる方がもう少し自立的にしていくという可能性をどう見据えるかというのが方向性の課題だと思います。ただ、今日はそういうお話にはなりませんでしたが、体験プログラムは学校で体験できないことをしていたり、中学生スタッフのかかわりや子どもみーていんぐなどの話もありましたが、そのあたりを事業者がもっと評価してもいいと思います。狭い意味の登録ボランティアだけではなく、応援団ですね。応援団としてかかわってくださる事業があるということを整理していただくとかなりの方に参加していただき、またどういった部分が、先ほど高齢者のボランティア登録の課題などの話もでしたが、可能性があるかということが見えてくるのではないかと考えました。</p>
中島係長	<p>登録ボランティアという枠組みだけをとらえての回答をこれまで行っていたというところもありましたので、子どもみーていんぐやGがくえんの子ども達の活動も一体として考えて説明すればよかったという反省点はあります。</p>
宮田委員長	<p>続いて子ども体験事業について、足立区民の利用促進ということでさまざまな取り組みがされていて、昨年の評価委員会の意見をいろいろ取り入れていただいていると思います。</p>
山崎委員	<p>昨年度の課題をクリアしていますというプレゼン資料の作り方なので、問題が見つからない。去年はここまでまとまっていなかったもので、こういうことがほしいと言えたのですが今回は足りないところを見つけにくいです。</p>
小森委員	<p>足りないというより、以前求められた点は改善されており、さらに課題は何かと示しているところはすばらしいです。また、そこを精査するというか、改善したというところが本当に改善されているのかということが1つのポイントです。さらに課題については、私達のような専門家がこういったところを課題にしたほうがいいのではないかと提案はできます。たとえば、子ども体験では、多種多様な活動をされていますが、その対応がただやっただけになってしまっていないかどうか確認していければと思います。これをただやっただけではなくて、どういう効果があったのか。それを今後数値化していくといったことが考えられます。他にも個人がただ体験するのではなく、人とかかわるような体験をコーディネートしていくことが今後の課題としてあげられると思います。個人で完結するのではなくて人とかかわる体験はとても大切です。繰り返しになりますが、ただ改善したということではなくて、本当に改善したのか、改善したがその内容はふさわしいものなのかを考えていければと思います。また、施設としてさらなる高みを目指すためには何ができるかなども見方の1つだと思います。</p>
山崎委員	<p>区民利用率が33%に増え、前よりも情報は手元に届くようになっていますが、足立区内に住んでいてもギャラクシティをまだ知らない人が多いと改めて感じました。</p>
小森委員	<p>足立区民優先というか、インセンティブのようなものについては、何か変わったということはありませんか。</p>
山崎委員	<p>足立区民専用講座ができたり、コンサートで足立区民割引があったり、他にも先行発売があったりします。</p>

小森委員	それは新しくできたのですか。
中島係長	そうですね。子ども体験事業についても受付を一日早く始めたり、専用のワークショップなどもあります。
勝倉委員	さきほど大林委員がおっしゃったように高齢者層の方がここに来てみようというふうになるためのアピールは足りていない。ギャラクシティの近所に住んでいる高齢者の方に聞くと行ったことがないという方がほとんどです。そういう声が多いのは残念です。
山崎委員	足立区としては高齢者の方も取り込んでいく方法で施設の運営を考えているのですか。
中島係長	こども未来創造館と西新井文化ホールと分けて考えると、こども未来創造館は高齢者が入り、何か体験するというのは難しいと考えています。そのため貸室を活用していただくという意味でご利用いただきたい。メインターゲットという意味では未就学児から小学生ととらえています。一方、文化ホールについては、今まで高齢者の方の利用が多かったので、去年「ギャラクシティらしさを」という課題を委員の皆様いただきました。その課題に対して、指定管理者は、小さい子ども家族も、多様な世代が来ることができるような施設にしていくという事業展開で改善を行ってきました。
宮田委員長	つづいて、まるち体験ドームについてです。 天文学や科学は日々変わってきていますし、新しい内容をどうやって取り組むかが大切だと思います。たとえば、機材や入っているコンテンツについても若干古くなってきています。また機械のなどのソフトウェアだけではなく、職員のスキルアップも大切になってきます。たとえば、ノーベル賞の受賞者などが発表されて自分が興味をもったときにギャラクシティに行けばわかる。少なくとも入り口についてはつかめるようになるということは科学館の役割としては非常に重要と思います。さらに高みを目指すと考えればそういうあたりにももう少しフォーカスしてもいいと思います。それを天文学や科学が好きな職員が一人ががんばるのではなくて、システムティックにどうやっていくのかが課題だと思います。
宮田委員長	つづいて文化事業について何かありますか
伊志嶺委員	3人くらいの職員でこれだけの公演本数をまわしているのは、大変だと思いますし、すごく努力されていると思います。昨年度文化ホールは休館していたので、このホールがどういう方向に向いているのかというのがよく分かりませんでした。今回初めて若い世代を取り込み、あらゆる世代をターゲットにしていくというギャラクシティの方向性が聞いて納得できました。ただ、28年度の事業を見る限り、文化ホールのオリジナリティというのはそんなに強くないという印象を持ちました。職員の数も少ないですし、大変だとは思いますが、課題としてはもう少しオリジナリティのあるものが出てくればと思います。また、集客が足りないところはすでに分析済みとは思いますが、もう少し改善できると思います。デーモン小暮の公演などはほかのところに行く予約がとれないくらい有名なコンサートですし、横山幸雄さんもネームバリューはとても高い方です。そう意味ではもったいないと思います。ワークショップを増やしたりした部分は評価できるし、これからやっという方向性はいいのではないかと思います。去年から比べると休館で見えなかった部分が見えてきて、よくなっていると思います。また、アウトリーチについてですが、今年3月に、都内の公立文化施設がどのくらいアウトリーチ、ワークショップをしているのかをアンケート調査したのですが、この規模のホールだとアウトリーチをしているところが多かったので、これからアウトリーチは大事な事業の1つになっていくと思います。28年度はなかったとい

	<p>うことですが、29年度は行っているということなので、アウトリーチはこれからもう少し広げていけたらいいと思います。</p>
宮田委員長	<p>文化事業だけではなく、こども体験事業もそうですが、非常に広いことをされていて、館の本来の目的というコアな部分がどこなのかというのが見えにくくなっている。全部みせていただくところはある程度はわかると思いますが、何も知らない区民の方からみるとどういふところなのか分からない。逆にそれだけ広い事業にうまく関連を持たせることができれば、もっといろいろなことができる可能性があると感じます。文化ホールとこども未来創造館のシナジーのような話も出ましたが、まだもう少しうまくできるのではないかと思います。施設の方向性については、指定管理者というよりも足立区役所で何を目指していくのか、来場者数などの数値は現時点で適切なのかなどを示していかないとはいけません。ここまで非常にうまくいっているのだから、このタイミングで考えるのはいいと思います。</p>
山崎委員	<p>伊志嶺委員はこんないいアーティストの方々が来ているのになぜ集客率が悪いのかとおっしゃっていましたが、区民は多分興味がないのだと思います。そうすると足立区の人たちにうけるコンサートをしたほうがいいのではないかと考えます。たとえば「0歳からの」とついているコンサートなどです。</p>
伊志嶺委員	<p>集客率だけで判断するのは問題だと思います。集客率が低いことが問題だと言っているわけではなく、集客率が低くても大事な事業、意義のある事業、これから育っていくかもしれない事業というものもあるので、もう少し長い目でみたほうがいいです。</p>
山崎委員	<p>そうすると足立区民が行きたいと思えるような広報の見せ方とか引き込み方を考えないといけません。現状ですと、この名前だけで行ってみたいという気持ちにはなかなかかなれないです。</p>
大林委員	<p>広報活動は一定のレベルまでは皆さんに周知できていると思います。しかし特定のすばらしい芸術家を呼ぶ場合はもう一歩踏み込んだ広報をしないと、興味のない人間には届いていかない。先ほど、チケットは2000円を超えると集客率が落ちるといふ話もありました。やはり、高額なチケットならばこの方の音楽を聴いてほしいということをもっと主催者側がアピールしないとはいけません。</p>
勝倉委員	<p>一度来ていただくと、二度目も行きやすい。一度も行ったことがないという人を取りこむためにハードルを下げていけるといいと思います。</p>
山崎委員	<p>専門家の先生がいいといっているのに区民にあまり響いていないのは寂しいですね。</p>
林委員	<p>どのアーティストの方も1度聞いてもらえれば素晴らしいのは伝わりますが、その1度目が難しいです。</p>
大林委員	<p>足立区内の住区センターや学校などに出前授業すればいいのではないかと。ただチラシを配っただけでは、目についたとしても行きたいとまではなかなか思えないです。</p>
伊志嶺委員	<p>アウトリーチでアーティストの方に学校などに行ってもらって、そこで顔を覚えていただいてコンサートに来てもらうという方法もあります。しかし、アウトリーチをやったからコンサートに来るといふのもなかなか</p>

	うまくいかないです。一概にアウトリーチをやれば集客が増えるわけではない。1つの手法としてアウトリーチは有効な手段だと思います。
宮田委員長	全体を通じてなにかありますか。
林委員	足立区に質問ですが、指定管理者の皆様が「2期目以降のことは考えていない」という雰囲気を醸し出していましたが、5年目でもしかしたら指定管理者が変わるかもしれないということですか。
中島係長	選定の最中なので変わる可能性もあります。平成25年4月から指定管理者制度がはじまりまして、平成30年3月でいったん1期目が終わります。2期目は現在、選定中です。
山崎委員	ギャラクシティを運営していけるような、指定管理者は、他にもあるのですか。
中島係長	こういった施設を管理する指定管理者、企業は何社かあります。その中の一つである丹青社を筆頭とするあだち未来創造ネットワークが1期目の指定管理者だったということです。
林委員	意見交換会で課題を抽出してきましたが、もし3月で変わってしまうのであれば指定管理者の方はモチベーションが上がらないのではないかと危惧いたしました。ただし、28年度の事業についてはしっかりと評価して、期間が短いとか考えないで、こうしたほうが良いと提案はしたいと思います。
中島係長	もしも現指定管理者が1期で終わったとしても、ギャラクシティを最後までやり遂げないと、最後ダメだったという情報が業界内で流れてしまいます。そのため、最後までやと遂げてくれると信じています。
浅見課長	指定管理者が変わったとしても、この施設は足立区として、維持していきます。したがって、委員の皆様が見て、ここは改善したほうが良いというところは、ご指摘していただければと思っています。そして次の指定管理者に変わるのであれば、その内容を我々区が責任をもって伝え、どう管理運営するのか指導しなければいけないと考えています。
宮田委員長	確認ですが、今回の評価委員会の内容は、28年度の評価をするということです。もう過ぎてしまっている平成29年度の12月までの事業にフィードバックはできませんが、28年度にやってきたことを評価するというのが重要です。あくまでも平成29年度の事業については次の機会にみていただくということだと思います。ではこれで意見交換を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。
中島係長	<6. 事務連絡> <7. 閉会>
宮田委員長	以上をもちまして、足立区ギャラクシティの平成28年度運営にかかる、第3回運営評価委員会を終了とさせていただきます。